
白狼と黒狼の伝説

水無月 皐月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白狼と黒狼の伝説

【Nコード】

N2307N

【作者名】

水無月 皐月

【あらすじ】

とてもとても広い洞窟の中、大きな岩の城があった。
そこには、犬の群れ「白銀軍」が住んでいた。
ある日、「シェイド軍」が攻め込んで来た。
二匹の子犬が生まれ、二匹は白狼、黒狼となづけられ、白銀軍復活、シェイド軍撲滅の為、仲間を集めるため旅に出る。
そんな犬が、旅をして、仲間を作り、恋をする物語。

第一話 二匹

生まれて最初に聞いたのは、唸り声と悲鳴。

生まれて最初に嗅いだのは、血の匂い。

生まれて最初に触れたのは、血と死体。

目はまだ明かず、気配を頼りについて行く。

自分の姿を見たことがない。ついて行っている相手も誰かは分からない。

いや、母親なのは確かだ。

どんな姿をしているのだろう。

隣で歩いている奴も。

―お前は誰だ、何故同じ道を行く。

目はまだ明かない。定めだからだ。

「こっちにおいで」

と言った、犬ひとについて行く《ゆく》。

否、母親について行く。

声からして、美しい犬ひとだろう。

隣で歩いている犬ひとは、どうだろう。

―貴方は誰、何故同じ道を行く^{ゆく}。

声が聞えた。

心の中で。

貴方は誰だと、聞いてきた。

―お前こそ。

心の中で、声が聞えた。

お前は誰だと、聞いてきた。

―貴方こそ。

二つの声がぶつかった。

―俺の名はまだない。

―私ものです。

―気が合うな。

―そうですね。

「どうしたの二人とも？」

二匹^{ふたり}の会話の邪魔をした。
声の主は、二匹^{ふたり}の母親。

「ギャワーン」

と、悲鳴が聞えた。

「急がなくっちゃ。」

と言うと、二匹^{ふたり}を持ち上げた。
すごい勢いで走る。

二匹^{ふたり}は、初めて風を感じた。
爽やかな風の匂いを。

第二話 白と黒（前書き）

見てくれた方が。
嬉しさのあまり、ガッツポーズ。

第二話 白と黒

広い草原を、獲物をくわえた白と黒の二匹の子犬が成犬と同じ位の早さで走っている。

きつと、獲物をくわえていなければもっと早いだろう。と、突然黒い子犬が止まった。

黒い子犬の後ろを走っていた白い子犬は、黒い子犬にぶつかった。

「黒、どうしたんだ？」

「母さんが呼んでる。白、これ頼んだぞ。」

黒い子犬・・・黒は、草原の隣にある森へと走っていった。

「仕方が無いな。」

木々が生茂っている、森の中を縫う様に走っていく。
しばらくすると、開けた場所に出た。
そこには、白い美しい犬がいた。

「母さん、お呼びですか。」

「おお。黒。お前に話があるのです。」

黒はそう言われると、黒と白の母親、麗華に近づきの麗華の前に座った。

「話とは？」

「今までどちらが兄か話していなかったけれど、黒、お前が兄だ。」

「白ではなくて？」

「ええ。白には気品があるけど、貴方にはあってあの子には無いものがあるの。」

「俺にはあって、白に無いもの？」

「そうよ。いずれ分かるわ。」

「あと一つ。話したいことがあるの。」

麗華が、真剣な顔になった。

「貴方たちは、」

「狼の子よ。」

木が大きく揺れた。

まるで、黒の動揺を感じ取っているかのように。

第三話 真実

「狼だって？」

「ええそうよ。」

麗華は真剣な顔で言う。

「あなたの父親は狼のダークネス。

口は悪かったけれど、心は優しい人だった。」

「大丈夫？ねえ、大丈夫？」

波が押し寄せる砂浜で麗華は、黒い塊に呼びかける。
黒い塊は、グッシヨリ濡れている。

「ま、まさか、し、死んでる？どうしよう」

麗華は死んでいると、勝手に決め付けオロオロしている。
と、麗華がオロオロしていると、黒い塊が突然起き上がった。

「うるさい！静かにしろ！」

麗華は驚きのあまり、飛び上がった。

「と、突然起き上がらないでよね！心臓が止まるかと思ったわ！」

麗華が言い終わると、黒い塊：黒い生き物は横になり、目を閉じた。

「ねえ、貴方名前は？私は、麗華。」

麗華が黒い生き物に問うが、黒い生き物は無視をする。

「ねえ、貴方、犬じゃないでしょ。狼？ねえ、狼なの？」

麗華は負けずに呼びかける。

「うるさい！狼だからなんだって言うんだ。」

狼は、目を開いたが、また閉じた。

「名前を覚えてくれたらうるさくしないわ。」

「……ダークネスだ。」

「そう、ダークネスね。いい名前ね。」

麗華はそう言うと、ダークネスに微笑んだ。

これが、麗華とダークネスの出会い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2307n/>

白狼と黒狼の伝説

2011年10月7日00時30分発行